

くしろ 男女平等参画通信

ともに創りあげる社会をめざして

Vol. 30

発行日：平成 22 年 3 月 17 日



〒085-0016 釧路市錦町 2 丁目 4 番地 釧路フィッシャーマンズワーク MOO 4 階
釧路市教育委員会生涯学習部生涯学習課

Tel 31-4579 Fax 22-9096

知っていますか？ “父子手帳”

1月23日(土)に「ともに創りあげる社会をめざして～今日からできること～」と題したセミナーをまなぼっと幣舞で開催しました。東北大学大学院の徳川直人准教授を講師としてお招きし、45名の参加をいただき、盛況のうちに終了しました。

セミナーでは、講演の後、「〇〇手帳」を作ってみよう」をテーマにしたチーム作業を行いました。講師から見本としてご紹介いただいたのが「父子手帳」です。女性は、妊娠すると居住する市等から「母子手帳」の交付を受けますが、最近は、パパも一緒に育児に参加する傾向が多く見られ、そのような動きの中で、全国あちこちで「父子手帳」を作る団体等が増えてきているようです。



【チーム作業の様子】

講師より指示があったのは、「職場でできる？こんな知恵」「誰にどんな手帳を持たせるか」「父子手帳を作るとしたら」の3つでしたが、5チーム中、3チームが父子手帳を作成しました。

どんな項目を盛り込むか、どんな情報が必要か、など各チームで「作業カード（手帳に対する意見やアイデアを匿名で書いたカードです）」のアイデアを基に意見を出し合って、手帳を作成しました。

☆こんな「父子手帳」ができました☆

「父子手帳～はじめましてパパです～」 「〇〇さんちの食育手帳」 「とうちゃんのための知恵袋」・・・妊娠中や産後の情報、ママの友達の連絡先、かかりつけの病院、兄弟の情報（学校や習い事など）などの生活に必要な情報を載せる手帳になっています♪

その他、「女性のための更年期手帳」「職場でできる私達の知恵（育児休暇にの活用）」を作成したチームもありました。

【出来上がった手帳】



◎今回、講師を務めていただいた徳川先生は、現在仙台市にお住まいです。

その仙台市では、「NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク」の運営する「せんだい父子手帳編集局」が独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」の助成を受けて、仙台版の父子手帳を発行し、各区家庭健康課や子育てふれあいプラザなどで配布しているそうです。また、ホームページでは子育て中のパパに必要な情報の提供や、パパからの情報・アイデア・悩みなどを掲載しています。

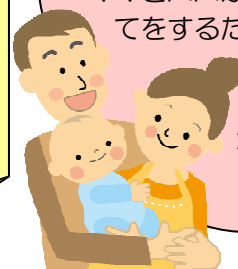
子育ては、決してママ1人のものではありません。家庭それぞれにあった形で、ママとパパと一緒に取り組むことができるためにこういった支援が必要か、釧路市でもこれまで以上に考えていかなければいけないと感じたセミナーでした。

◎せんだい父子手帳編集局ホームページ
<http://sefami.sakura.ne.jp/fushitecho/>
ぜひご家族でご覧ください♪

ちなみに・・・

釧路市では、父子手帳は発行していませんが、乳幼児の健診の際に「育じのツボ」という冊子をお渡ししています（健康推進課）。子どもの年齢に応じて1～5まであり、ママとパパと一緒に子育てをするためのヒント

や必要な情報が掲載されています♪



男女共同参画ヤングリーダー会議出席報告



昨年は男女共同参画社会基本法施行10周年に当たり、男女共同参画社会実現へのセカンドステージに入りました。今までは理念の周知でしたが、内閣府はセカンドステージでは進展しない分野を活性化させることを主たる目的に掲げています。

この会議では、事前に3つのテーマが提示されており、選択したテーマごとに班に分かれ班別討議を行い、最終的に討議内容を全体の場で報告発表をしました。

私が参加した班（2A班）は「男女共同参画を進める上での効果的な活動のあり方」がテーマでした。討議を進める上で班長（進行役）・記録者を決め、2人ずつのペアになり「男女共同参画」についての理解している点や不明な点を挙げ、特に不明な点、わかっていない点に着目して、それらについてどのような方法ならば、自分たちも含め他の方々にも、より理解を深めてもらえるのかを意識しながら討議を重ねました。結果、より理解を深めてもらうため、視覚に訴え記憶に残るようにと考え、文書での発表ではなく一組の共働きの若夫婦の日常生活の一コマを例に取り、ドラマ的な寸劇仕立ての報告での発表としました。各地域の方言を交えながら、各人が俳優顔負けの演技を行い、報告の最後では会場全員、もちろん内閣府の方にも参加していただき「男女共同参画！参画！」のポーズを一緒に行うことで会場全体が一体となりました。



今回の参加で改めて感じたことは「違い」が豊かさに繋がるということでした。北海道から九州までの男性3名女性9名、さまざまな職種、年代、地域性、考え方、その違いが豊かな発想や視点を生み出し、紡ぎ出す可能性の大きさに驚かされ、また喜びでもありました。各人それぞれの違いを認め合い理解しあうことの大切さ。これは現在私が関わっているカウンセリングに通じることであり、また、「男女共同参画」にも通じることであると思います

【報告：敷浪泰代さん】

☆ こんな本・あんな本 ～ 「男女平等参画」を知る・読む・感じる～ ☆

性差とは何か

—ジェンダー研究と生物学の対話—

財団法人日本学術協力財団 編集・発行
「身体的性差」と「社会的性差（＝ジェンダー）」の関連性について、多様な諸科学の観点から考察しています。各科学分野の研究者が、それぞれの立場から「身体的性差」と「社会的性差」の問題に取り組んでいて、男女共同参画社会の形成にとって重要な視点を提供している1冊。

凛とした「女性の基礎力」

坂東真理子 著 暮しの手帖社 発行

「女性の基礎力」という主題に基づき、自分の行動や生き方の芯となる信念を持つことと既成のルールや誰かの意見で動かされるのではなく、自分の目で世の中を見て判断し、行動する「見識」を持つことが重要であると提案しています。大ベストセラーとなった「女性の品格」の著書が贈る、社会を生きていくうえでの「信念」を深め、基礎力をしっかり培い、強くしなやかに生きるための本です。

【市立釧路図書館からのお知らせです】